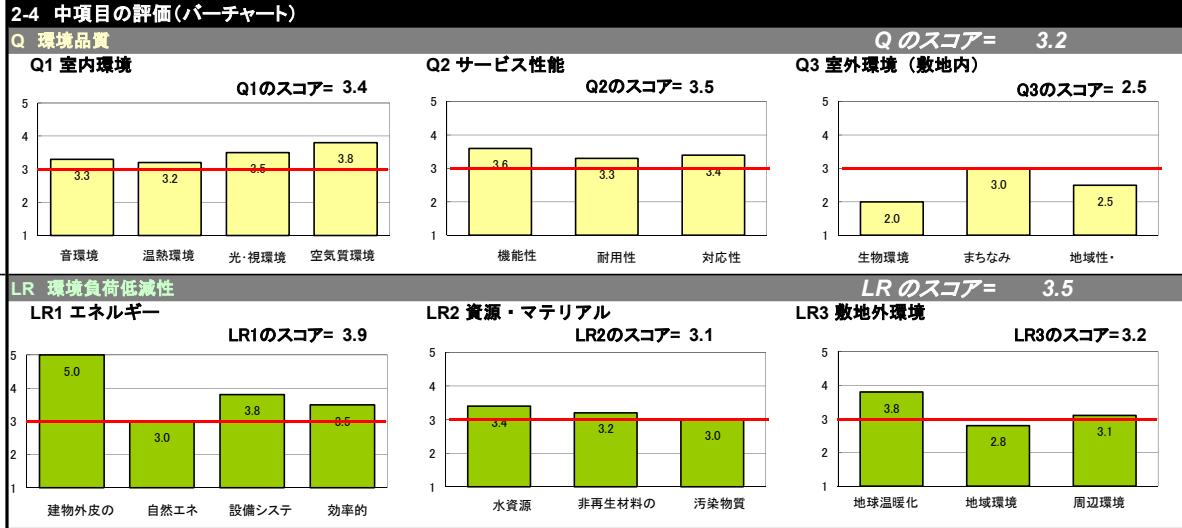
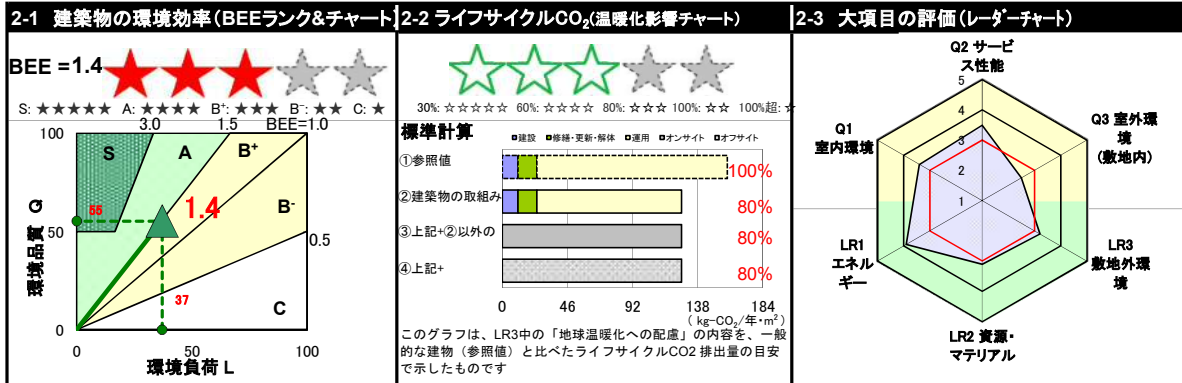


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)変なホテル3号棟	階数	地下0階地上2F
建設地	愛知県蒲郡市海陽町1丁目4番1の	構造	木造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	286 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年6月 予定	評価の実施日	2017年8月17日
敷地面積	4,780 m <sup>2</sup>	作成者	市原 輝也
建築面積	2,582 m <sup>2</sup>	確認日	2017年8月17日
延床面積	4,361 m <sup>2</sup>	確認者	市原 輝也



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">40.8 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$



<b>3 対応性・更新性</b>					3.4	0.29	3.5	3.5	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり					-	-	4.0	4.0	-	0.50
1 階高のゆとり				1階の階高=3.7m以上	-	-	-	4.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率=0.151	-	-	-	4.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					-	-	-	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					3.4	1.00				-
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17				-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17				-
3 電気配線の更新性				PF管を使用し更新時に仕上材を傷めない。	5.0	0.11				-
4 通信配線の更新性				PF管を使用し更新時に仕上材を傷めない。	5.0	0.11				-
5 設備機器の更新性					3.0	0.22				-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22				-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.30				2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50				-
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50				-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.5
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40				3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI <sub>m</sub> =0.64	5.0	0.30				5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化				BEI <sub>m</sub> =0.76	3.8	0.30				3.8
4 効率的運用					3.5	0.20				3.5
集合住宅以外の評価					3.5	1.00				-
4.1 モニタリング				主要な用途別エネルギーの消費量を把握し、妥当性を検討可能。	4.0	0.50				-
4.2 運用管理体制					3.0	0.50				-
集合住宅の評価					-	-				-
4.1 モニタリング					-	-				-
4.2 運用管理体制					-	-				-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30				3.1
1 水資源保護					3.4	0.15				3.4
1.1 節水				自動水栓に加え、節水型便器を使用。	4.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				-
2 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67				-
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33				-
2 非再生性資源の使用量削減					3.2	0.63				3.2
2.1 材料使用量の削減					-	-				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.26				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		-	3.0	0.22				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		再生クラッシャーラン	3.0	0.22				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法。	4.0	0.26				-
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68				-
1 消火剤					-	-				-
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50				-
3 冷媒					3.0	0.50				-
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮		①		ライフサイクルCO2排出率=80%	3.8	0.33				3.8
2 地域環境への配慮					2.8	0.33				2.8
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自			3.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				-
1 騒音		独自			3.0	1.00				-
2 振動		独自			-	-				-
3 悪臭					-	-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40				-
1 風害の抑制					3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制					-	-				-
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制					3.7	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光害ガイドラインのうち一部を満たし、屋外広告物は過半を満たす。	4.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				-

**重点項目スコアシート**  
(仮称)変なホテル3号棟

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:40.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)変なホテル3号棟

計画上の配慮事項	
総合	先進技術を導入した、ロボットホテルの長崎・舞浜に続く3号店。 テーマパークに隣接し、エンターテインメント性に特化したホテル。 準工業地域に建つホテルとして、建築物の環境性能を高めると同時に、周辺の環境負荷抑制を配慮し計画している。
Q1 室内環境	室内天井高さを2.60mとり、大型窓により開放感を確保 水廻りは洗面・WCとセパレートした単独浴槽ユニットバス採用 内装仕上材は全てF☆☆☆☆採用 全館禁煙とし、屋外に喫煙スペース設置
Q2 サービス性能	ロボットによりチェックイン・チェックアウト手続きを多言語対応 その他ルームサービスロボット・お掃除ロボット・客室コミュニケーションロボット等9種120体のロボットにより、エンターテインメント性の演出 全室無料Wi-Fi完備
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境を考慮した2階建低層ホテル
LR1 エネルギー	LED照明採用 BPI <sub>m</sub> =0.64、BEI <sub>m</sub> =0.76
LR2 資源・マテリアル	大規模木造の採用によりCO <sub>2</sub> 削減
LR3 敷地外環境	建物周辺の緑地によるヒートアイランド対策 汚水流量調整槽の設置により、汚水排出量の地域調整 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率=80%
その他	特になし。